

令和5年度 年間 自己チェック評価表

<<自己チェック表から見えてくるもの>>

--	--

3歳以上児・3歳未満児クラス担任代表者、園長

	今年度の評価点 (教育・保育や自己資質等で 高く評価できる点)	今年度の課題点 (教育・保育や自己資質等で より努力を要する点)	次年度の改善点 (教育・保育や自己資質等で 次年度に改善すべき点)
クラス 3歳未満 運営 児評価	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが安心して生活することができるよう、一人ひとりとスキンシップを図ったり、成長や発達に合わせた援助や声掛けの仕方を工夫し、保育することができた。 行事の参加を通し、保護者の方に子どもたちの成長した姿を見ていただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任間での話し合いや意見交換の時間をとるようにコミュニケーションを図り保育してきたが、他クラスとの共有という部分ではまだまだ認識の差があり、把握できていないところもあり、実際の日々の保育に追われ話し合いの時間が取れていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間で効率よく話し合いができるよう、事前に各クラスで内容をまとめたり、話し合いがより充実したものになるよう口頭だけでなくメモや資料に残すなど、工夫が必要だと感じた。また、職員間で意見交換しやすい環境づくりに努めたい。
クラス 3歳以上 運営 児評価	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインを取り入れたり、子どもたちの様子などをクラス外の保育者とともに共有し、様々な子どもの発達特性に合わせた保育を展開することができた。また、季節の行事や伝統を遊びの中で伝え、子どもたち自らが興味を持てるような環境づくりを意識した。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達支援児に関して、どうしても加配担当の負担が大きくなってしまふ。子どもとの信頼関係も大切だが、精神的な負担を減らすよう相談し合える環境を作るべきだった。また、前年度と同様になってしまうことが多かったため、新しいことへの挑戦をすることを恐れずに教育・保育に取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会や発表会など今までの伝統を大切にしながらも時代の変化に合わせてプログラム内容を考え直すなど、より子どもたちが主体的に活動できるような保育を考える必要があると感じた。また、リーダーの保育者が中心となり、保育者同士、保育内容の評価をしていくべきだと思う。
園 全体 評価	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の援助や声掛けの工夫により、子どもたち一人ひとりの成長や発達に合わせた教育・保育への取り組みができていた。 行事を見直しながらも、保育参観や運動会等では普段の子どもたちの様子を観ていただけよう、また、発表会では成長を感じていただけるような演目を行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な子どもに対しての保育者の負担が増しているなか、保育者間の共通理解を持つためにも“ハウレンソウ”の基本に戻り、コミュニケーションをもっと取る努力も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの教育・保育の振り返りをし、単に行事を見直すだけでなく、保育者間での話し合いを限られた時間の中でも充分に行い、全体に伝える努力が必要である。 保護者との信頼関係の構築や子育て、保護者支援においても上手にコミュニケーションを取り、園の情報を発信していく。
特記	<p>今年度の評価を踏まえ、次年度「指導計画」に盛り込む目標やねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者間の交流がもてるような行事を計画。 子どもの家庭環境や発達状況を考慮しながら、個人面談等を行い、支援の必要な子どもだけでなく、子育てに悩んでいる保護者の話を丁寧に聴き、信頼関係を築いていく。 		